

・雨でも休まず、191回、192回、・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・ 定例活動1：小原本陣の森：6月 3日：第一土曜日、参加費400円

森林整備・担い手育成

- ・ 定例活動2：若柳嵐山の森：6月18日：第三日曜日、参加費400円

- ・ 第四期定期総会：6月18日、定例活動終了後、相模湖交流センター

- ・ 服 装：汚れても良い格好、着替え、濡らない足元。
- ・ 持 参：軍手、なるべく皮製、万一のケガに備えて・・・保険証、食器(缶・箸)。
- ・ そして、作業を楽しむ「気持ちのゆとりと、怪我をしないこと」

森林NPOの役割

狭義には森林ボランティアは、森の中に入って森林整備活動をしている人々を意味している。当会では、森林だけでなく、沢山の人々に森林活動に参加してもらうため、都会に逃出して森林広報をすること、木を使うこと（森をいかす事業：環境農政部・森林課協働事業）も含めている。

活動の当初、月尾嘉男先生（東大名誉教授、元総務省審議官）が日経新聞で「これからの森林は、森林ボランティアに期待する」と書いていたから「森林ボランティア程度に何が出来る」と反論したら「森林ボランティアは、世論が動かして本物。やってみろ」と気合を入れられた。月尾先生には、当会の評議員をして頂いている

あれから9年、5月3日に当会が共催する「第3回：川崎ネイチャーフェスティバル」では、「上流桂川・山梨県～下流相模川・神奈川県」をつなぐことを試みた。会場には、県の夫々森林担当部署の幹部が多数、集まって下さった。来年から始まる神奈川県の「水源環境の保全・再生」について両県を「一緒にやろうじゃないか」と言うような「つなぎ役」になりたいと思っ

NPO活動は、自由で柔軟な発想と迅速な行動が武器だから、やはり、森の中での活動だけでは自己満足の域を出ないと思う。このネイチャーフェスティバルは、川崎だけでなく今年は、湘南地域でも計画している。県央の相模原もある。横浜もある。桂川・相模川をつなぐ即ち、山梨と神奈川をつなぐこの運動は、全国の流域の森をつなぐモジュールになればよいと思っている。

来年からは神奈川県の進める20年間と言う長期にわたる大型予算の「水源環境の保全・再生政策」が始まる。この政策が成功するか否かは、ある意味でわが国の森林政策の行方を決めかねない。この政策を成功に向けて市民活動の側から下支えする事も当会・森林NPOの役割と思う。

臨時活動報告1：5月3日（水・祭日）第3回、川崎ネイチャーフェスティバル

「木を使うこと、森を守ること：桂川・相模川流域をつなぐ」

5月2日の準備設置の日は、雷雨の悪天候となったが、当日3日は朝から終日、五月晴れ。全てが準備万端、流れるように事が進んで行く。

上流・山梨の水源地の森からは、甲斐檜・杉・赤松・唐松6m四角推シンボルタワーが威容を示し、3m三角推：森のイメージ18基が森のテーマを明確にした。

都市型NPO事まづくり研究会と共催した。それを沢山のNPO 団体が支えてくれた。協賛参加者は、山梨から森林環境部・素材生産者・森林組合、神奈川からは環境農政部・JR貨物・JFEなどの企業、シュタイナー学園、望星高校など森林NPO緑のダムの森仲間・そして川崎市からは環境局・水道局の参加を得て都会のど真ん中での豪勢な森林広報イベントとなった。

11時開場と同時に親子連れの参加者がドッと押し寄せるように来場してくれる。出し物は、森をテーマに落ち葉のプール、ノコ引き体験、FSC材学童机・椅子展示、薪産材住宅広報、環境をテーマの廃油利用JRバスの紹介など、ありとあらゆる。考えられる限りの工夫が凝らされている。柔軟な発想と行動の市民NPO活動の面目躍如である。

何より嬉しいのは、親子連れがこの催しを楽しんでくれて、立ち去らないことである。約2000坪の会場は人で盛れんばかりになっていく。森仲間他、協力団体の250人ばかりが、応接に駆けつけてくれた。感謝。毎日新聞が大きく報道してくれた。

このJR臨海線跡地に拘るのは、ここが戦後復興の鉄道輸送の要の地であったし、京浜重工業地帯のいち早い戦後復興に相模ダムが電力供給を続けた。川崎市には今もなお、毎日6.5万トンの水を供給している場であることなどから、ここが森林と都市をつなぐ拠点として、川崎市に「森の入り口」として残して欲しいからだ。また、開業だけでなく防災・環境基地としても考えるべき場所でもある。





指導する大日向隊長

ゴールデンウィーク真っ只中と言うのに、23人もの森仲間が集まった。この日は、初夏を思わせる暑さだったが5ヶ月、森を留守にしていた富沢さんがリハビリの癒れを切らせ、突然、森に現れた。山の持ち主、石井さんも山菜取りに上って来られた。

この日、石井山での炭焼き班、森林整備班と間伐技術講習班に分かれ、整備班は倒木整理と材確保のための玉切り、技術講習班は園田さんが間伐の基本中の基本、チェーンソーを使わずにノコで木を伐る方法を教えてくれた。掛り木にかけるロープの掛け方、木の伐り方で追い口、受け口の角度や位置、なかなか思うように切れてくれず腕も疲れて大変だった。（石井さんが園田隊長の指導振りに感じ入っていた；石村記）午後は間伐エリアから少し下ったところのボサ刈りをした。

炭焼き班は、嵐山の森で使っていたドラム缶を選び出し、一気に火を入れるところまで進んだ。煙突から見事にモクモクと煙が出ていた。急に暑くなったこの日は、みんな少々バテ気味だったが、新築なった「カド屋」で英気を養って帰路に着いた。

活動報告3：若柳嵐山の森：5月16日

(第三日曜日)

今回も一時雨の子報も外れて爽やかな五月晴れの森に110人程が集まった。程・・・と言うのは途中参加、遅れ参加がかなりあったので掌握できなかったからだ。

およそ、森林作業班と里山作業班に分かれた。今月からパートナーシップを検討するゴールドマン・サックス証券グループは全員初参加だが、林床整理

はベテランの大日向・川田仲間が指導した。林床と言ってもD地区への、いきなりの急斜面で皆さんは目を白濁させていたが、楽しんでくれたようだ。

望星高校生による「望星の森」は、東海大生が加わって2年掛けて移植した樹の木が、すくすく、青々と育っていた。希望に溢れる森だ。



基礎訓練を受ける佐伯みちよ

神奈川県と協働授業の「緑のダム体験学校」は、斉藤（学校長）、加藤、林仲間の指導で面白く楽しく、有意義に進行した。この3人は研究心が旺盛で、この3年間の研究成果が大きく内容の充実が相当なものだ。

100人以上の参加ともなると、掌握できなくなるのでどうしたものかと対策が必要。これまで森は、全てを解決してくれたが、危険管理だけは常にシステムの見直しが求められる。

同日：森林作業外の風景

投稿：山本晶子

作業開始前から大騒ぎ！、こんな大人数、見たことないぞ。結果、本日の参加者は110人以上。それだけいたって、活動の場所、指導する経験者がいるんだから、この会って、すごいなー。

お昼の時間には、半塚から駆けつけてくれた木谷さんの弾き語り・・・森の中の音楽会。「涙そうそう」が始まり、聴き手も口ずさんだり・・・時間が過ぎて行きました。森の小鳥たちも聞き惚れていたみたい。素敵な歌声をありがとうございました。

終礼では、嵐山を退かれる園田総隊長に敬意を表し、月桂冠を進呈。

活動の終了後は、有志たちによる新婚宮村夫妻の（森の中の結婚式）。先日執り行われた披露宴に出席したメンバーから華がった「森の仲間として祝福したい」話から、連水ウエディングブランナーが胸を亮した。

紙で作った花や旗、風船で飾られた「チンドンリヤカー」に乗せられた新郎新婦が、教文子の高校生に引かれて登場。バージンロードならぬ、レッドカーペットならぬ、栗の木の下草のグリーンカーペット。女子高生からは新婦に手作りのブーケ、ティアラが贈呈された。そして、森の活動でならぬ丸太をケーキに見立てたチェーンソーカット！。新郎の工具さばきに新婦も惚れ直したことでしょう。

初参加者、新郎新婦の感想も同じであって欲しいと願いつつ・・・あー、楽しかった・面白かった。参加した森林間の皆さんの笑顔が印象に残る一日でした。



森の注意を受ける、
ゴールドマン・サックス証券からの参加者



木谷さんによる：「森の中の音楽会」

小仏峠～小原本陣～弁天橋～嵐山：東海自然遊歩道：新ルート

上記が「東海自然遊歩道」に新たに指定された。ここは甲州古道の重要地点で史跡も多く埋まっているから良い形で残すのも当会の責務だ。

5月13日・小雨の中、清水・斉藤・丸茂・遠水・石村の5名が踏査行に入った。「雨でも休まず」が身に付いているから「いい雨だなー」の乗りで楽しく全行程を6時間で踏査した。古道の傷みはひどい。腐屋・歪まれた巨木の石碑・暗い森・道を塞ぐ倒木・崩れ落ちる道、狭い危険な尾根道・朽ちた木道……。中峠の藪の中の石垣は、20人ばかりの街道守備兵の屯所跡。近藤勇が退路を断つために爆破した岩跡。屯所跡地の苔むした墓所跡の戒名を斎藤さんが国会図書館で調べたら、思いがけない名前が浮かび上がってきた。ここは甲州武田藩、相州北条藩、武州吉良藩の国境。相模溪谷・弁天島・河の関所を相州・鈴木家が守った。ここは貴重な歴史の道。

…「過去を知って現在を思えば、未来が見えてくる」。

森の中の「モマ工房」完成

投稿 清水圭司



森の中の作業小屋完成

「FSCの森に相応しい作業小屋を・・・」と言うのが会のリクエストでした。FSCの森の作業小屋にはFSCの森の木を使わなければ何の意味もありません。森には丸太だけが豊富な状態です。そのため楡丸太をそのまま柱に使いました。これは結構質沢なことだといえます。こだわって床材も壁材も扉材の杉を使いました。丸太は柱間の直角を取るのも難しく太さも違い、曲がりもあります。「丸太を使うのは大工だって嫌がるよ」と言う大坪さんの言葉に一安心。私と遠水さんで始まった工事は加藤（泰）さん、そ

して松尾さんが最終段階で手伝ってくれて完成しました。

斜面の広場で工作をしていた会員も水平の床を見て今まで以上にやる気が出たようです。この工房が豊かな森をつくるために伐採された間伐材に息を吹き込み一定の社会的価値を持たせ、再び豊かな森づくりの一翼を担うという森林再生の場所として森の皆さんに有効に利用されるなら大変嬉しいかぎりです。

活動アンケート5、回答。

FSCは、問題があればそれを一つずつ解決することを求めている。そこで当会活動のどこに問題があるかアンケートを行った。208件のアンケートに対して38項目、58件の回答

が得られた。昨年11月から今年4月までの全般的なこと(組織・資金・情報公開・社会的責任)について解答してきた。今月から森林管理に関する疑問・意見・提案を取り上げる。忌憚のない反論・異論を提供されたい。

(森づくり作業)

提案：森づくり作業の熟練度評価が難しい。当会は、素人集団としてなら、まあまあと思うがプロとして見た場合、全体に甘いのではないかと、サボリが多いので分からない部分も多いが(正会員)。

回答：都会から来た全くの素人が、活動を重ねるうちに素人でも躊躇するFSC認証を登録するまでになってしまいました。もう、素人集団と言えないのではないかと指摘される事がありますが所説、プロとして事業をしているわけではありません。

現在、毎回80~100人程度の参加がありますが、プロの作業力量を持つものは、4~5人がいいところでしょう。プロと森林ボランティア活動は別のものです。そのような視点で見てください。

「サボリが多い」というご指摘は、それはチョッと的外れと思います。この活動は、森での癒やし・楽しさ、自由が基本です。初参加の大部分の方が「森林の経験がありませんが・・・」と心配げに問い合わせてきます。そんな時は「イエイエ、森の風景になって頂くだけで結構です」と答えています。参加することに意義ありです。森で癒やしを得て、会社でバリバリ働いて頂く、そんな人々が強い力を発揮してFSC国際認証の森をつくりました。

但し、作業に伴う危険は、プロもアマも関係なく来るのですから、危険管理と言う意味では甘いというご指摘は、正しいです。参加人数が増えるに従って、危険度が増すのですから、もう増えて欲しくないと感じることでもあります。怪我に対する危険管理は、60人程度が良いところですが、100人ともなればもう、遙かに限界を超えています。根本的に見直さねばならないところに来ています。ご指摘があったことを感謝します。

木を使うこと、森を守ること。8、文責：自然素材・古材ギャラリー住工房なお

前日の雷雨とうって変わり晴天の下で「第3回：川崎ネイチャーフェスティバル」開催されました。屋外イベントなのに会場には森を感じさせるものがたくさん。出展者用のテントは青竹で作られ、屋根は御蔵(みす)。森のカフェは皮付き丸太の小型のテレビの組み合わせ、屋根は神奈川県建具協働組合より障子、床は山梨・東林業よりのFSC材と、住環境豊シンボジュウムよりの国産無農薬畳です。野点の席と授乳室は和紙の衝立で仕切り、床は勿論畳です。

カフェの家具は建具協働組合が神奈川県産材のテーブルや椅子の提供です。檜のベンチもありました。子供たちの遊び道具も木です。NPO伊勢原森林山山研究会の広葉樹ジャングルジムと落ち葉のプール。ジャングルジムは前日の組み立てだけでなく、この日の為に落ち葉をセッセと集めて、適当な木を切り出し皮を剥く作業もありました。11時間開催の合同と共の子供たちがぶら下がっていました。ぶら下がり落ち葉を空に投げたりで、とても楽しそう。カフェも

評判が良く寝転がったり、テイベの間を行ったり来たり。太鼓のバチ造りではナイフと格闘する姿、玄米のおむすびを握るワークショップでの真剣な表情、つくった後のおいしさに満足顔。長野県から参加の小海塾は白樺に小人さんの顔を掘くワークショップ。大小様々な白樺にかわいらしい森のプテリッパアの誕生です。

木と言えば軽トラに石釜を積んでまきで焼いたピザも登場しました。こちらはおいしい木の使い方。中央に巨大なシンボルツリー、その周囲にJR提供のミニ電車には子供たちの行列。乗るため森のパスポートが必要です。このパスポートもかなり前から準備されました。食用廃油で走るJRバス、電源は太陽発電にこだわり、正面の舞台は相模湖のFSC材ヒノキ製です。

環境にこだわる「大工棟梁：SHS友の会」や遠く北都留森林組合も参加。望星高校、シュタイナー学園のバウムークヘンづくりにも列が出来ていました。都会でも木を使う遊びと森林環境を訴えることを、思う存分に表現されたお祭りでした。

活動の記録 1月～5月



1月：森の神様に挨拶する



2月：常岡・望星高校生



3月：小仏峠・景観調査



4月：石井山踏査

5月、新緑の若柳嵐山に森・定例活動日は、神奈川県のご協賛もあって「緑のダム体験学校」を開催した。

森林組合に勤めていて、自分でも森林NPOを立ち上げたいと希望している地元相模湖町の井上さんは特に熱心に質問をしていた。

開講は20回を越すが講師を務める加藤さん、林さんの知識・内容教える姿も板に付いて堂々たるものになっている。



森林の中の土壌調査：体験学校

第四期：通常総会

第四期：通常総会を以下の要領で行いますので、ご参加ください。

日 時 2006年6月18日 定例活動（若柳嵐山の森）終了後
午後16時00分～17時00分

場 所 相模湖交流センター2F 研修室

- 議 題
1. 第四期 事業報告・収支決算
 2. 第五期 事業計画・収支予算
 3. 役員交代
 4. その他の事項

総会終了後、懇親会 相模湖交流センター内、ル・ボン 参加費：1000円

活動のモットー： 急がず、楽しく、無理せず、休まず。ボチボチと・・・
そして、沢山の参加で森はよくなる。

名 称： さがみ湖・森づくりの会：NPO法人緑のダム北相模/森林部会

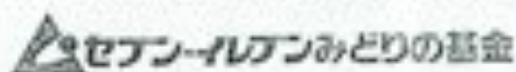
事 務 局： 154-0023 東京都 世田谷区 若林3-35-9

発行人：石村 貴仁 T&F 03-3411-1636

HP：<http://midorinodam.jp>

E-mail：maritono@rk9.so-net.ne.jp

協 働 団 体：神奈川県(企画部、環境農政部、県北地域県政総合センター森林部)。



ご支援団体：WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建設業組合
東急コミュニテイ、ゴールドマン・サックス証券